

### 3. 上祖師谷地区における課題と取り組み

#### 課題1 初期消火・訓練

##### ■課題・意見

[上祖師谷エリア]

- ・仙川の水を使った消防訓練を行っている。D型ポンプ訓練は年間10回以上行っているが、スタンドパイプは自治会等がない。まちづくりセンターや学校にあるスタンドパイプで訓練をしたい。
- ・街路消火器・消防水利の認知度が低いので、実際に歩いて確認したり、防災マップに落とししたりしていくべき。
- ・街路消火器が使えない状態になっていることがないように、行政任せにせず、町会などでもチェックしていくべき。
- ・新しい家も増え、人口も増えている。今まで防災訓練等に参加していない人にいかに参加してもらうかが重要。人が集まるイベント等でPRするべき。

[粕谷エリア]

- ・D型ポンプ訓練を行っているが、総体的にD型ポンプもスタンドパイプも配備数量が不足している。
- ・消防水利について、まったくわかっていない人がいる。もっと多くの人に位置や使い方について知ってもらう必要がある。
- ・避難所がエリアの端にある。防災倉庫もエリアの端の神社にあるので、火災の危険性の高さを認識している。
- ・粕谷には、防災倉庫は3箇所にあるが、西側の水利が手薄である。

##### ■地区としての取り組みの方向性

地区で火災が起きた際、延焼によって被害が拡大することを防ぐためには、自助・共助による初期消火は重要となる。

D型ポンプの配備と訓練に引き続き取り組んでいくとともに、街路消火器の設置場所や、スタンドパイプが配備されている防災倉庫の場所、消防水利の位置や使い方などについて、防災マップを作成する等、もっと多くの人に知ってもらう方法を検討する。

また、マンションなど集合住宅との連携にも取り組んでいく。

##### ■各団体の今後の取り組みの方向性

[上祖師谷自治会]

- ・スタンドパイプの配備について検討する。

[祖師谷橋自治会]

- ・防災マップを作成する等、消火栓、街路消火器等の設置場所について、自治会員全員にわかるよう周知に努める。

[成城通りパークウェスト自治会]

- ・自治会加入の促進に取り組んでいくとともに、防災について自治会員の関心を高めることに努め、防災訓練参加者の増加を目指す。

[粕谷会、都営第一八幡山団地自治会]

- ・D型ポンプ・スタンドパイプ・防火水槽等の情報を掲載したマップを作成し、住民に周知する。また、女性や学生など多くの人が資材を使えるようにしていく。

## 課題2 情報収集・情報伝達

### ■課題・意見

[上祖師谷エリア]

- ・防災無線は聞き取りにくいエリアがある。
- ・防災訓練等で情報伝達に役立ったのは、「伝令」だった。
- ・災害時、町会で住民の安否情報を把握するのは難しい。まずは自分や家族の安全確保を第一優先にしてほしい。
- ・災害時、町会役員がどう参集するかについて等、マニュアルを作成するのは難しい。
- ・町会内でもっと防災意識を高めていくことが課題。
- ・世田谷区の防災メールや災害時伝言ダイヤル「171」等、災害時の情報収集の方法についても防災マップ等に掲載し、周知していく。

[粕谷エリア]

- ・防災無線は聞き取りにくいエリアがあるが、災害時伝言ダイヤルなどで安否確認できる。
- ・まずは、住民同士のコミュニケーションをよくすることが大切である。
- ・新マンションなどには町会・自治会未加入世帯が多く、情報がない。情報共有も必要である。また、大きいマンション組合は理事長が毎年変わるので、継続して話し合うことが難しい。
- ・戸建て住宅も増えているが、町会に入らない人も多い。
- ・発災時、情報が町会内でどのように流れるか、十分に整理されていない。組織系統や連絡順などについて、早急に対応したい。
- ・町会加入促進は、地道な活動が必要。新住民の方とは、イベントなどで顔が見える関係を作れないか？
- ・子どもを通じて何かできないか。楽しいおまつりイベントを通じて、PTAも入り、子どもを通じてつながる糸口を作っていくことができるのでは。

### ■地区としての取り組みの方向性

災害時、電話などがつながらず、情報収集ができなくなることが想定される。他の情報収集の手段・方法のひとつとして防災無線があるが、防災無線

は聞き取りにくいエリアがある。

災害時の情報収集について、行政が発信する情報を入手するには、防災無線以外に、防災メールやラジオ「FM せたがや」があることを周知していく。

また、地区の災害に関する情報を周知し、共有していくには、住民同士のコミュニケーションをよくすることが大切であり、そのためには町会・自治会に求められる役割は大きいですが、町会・自治会未加入世帯も多い。

住民同士のコミュニケーションによって、災害時の情報を周知・共有していくために、町会・自治会加入促進に取り組むとともに、イベントなどを実施して住民同士が顔の見える関係を作り、防災訓練だけでなく、防災について話し合う場をもっと設定していくことを検討する。

また、災害時の指示系統や連絡順など情報伝達の方法について、町会・自治会を中心とした組織的な連絡系統作りを進めていくことを検討する。

#### ■各団体の今後の取り組みの方向性

[粕谷会、都営第一八幡山団地自治会]

- ・防災無線が聞こえない地区などは、情報共有の方法を検討する。
- ・個別の団体だけでなく学校や PTA、新しいマンション等と連携して地区全体の訓練や情報共有を行っていく。
- ・蘆花まつりなどのイベントで防災に関する情報や体験を共有し、啓発を行う。

### 課題3 避難誘導・訓練

#### ■課題・意見

[上祖師谷エリア]

- ・指定している一時集合所はたくさんあるが、認知度は低い。また、範囲が広く、人口も多いため、東と西に拠点を分けた方がよい。
- ・祖師谷橋自治会は、エリア内に一時集合所に適した広場や公園がない。
- ・仙川の東側から避難するには、橋を渡る必要がある。橋の耐震性・安全性について確認する必要がある。
- ・祖師谷橋自治会で、数年前に警察や消防も関わって大掛かりな「発災時避難訓練」を行ったが、とても役に立ったので、今後いろんなことをやっていきたい。
- ・発災時の本部機能を自治会で行う訓練をやりたい。
- ・まちづくりセンターが軸になって、地域で情報収集と発災時訓練に取り組んでいくと有効ではないか。
- ・発災時訓練では一般的な訓練だけでなく、より具体的な動きを取り入れた訓練ができるとよい。

#### [粕谷エリア]

- ・避難誘導に関しては、マンション・町会などの団体ごとに対応していただくしかない。
- ・他地区の方が来ているときの対応について、今後ルールを決めておく必要がある。
- ・基本的に自主避難となるが、マンション住民にも避難場所を知ってもらう必要がある。
- ・団地自治会では、在宅避難も視野に入れて自分で備蓄を進めてほしいと案内している。今後さらに周知していく。
- ・粕谷会は、月1回のD型ポンプ操作訓練を実施している。
- ・現在、芦花中学校と合同で防災訓練を実施している。芦花中のとなりの特別養護老人ホームと支援訓練も実施している。
- ・芦花中学校は医療救護所になっている。協定上は医師が来るということになっているので、医療が必要な人がいた場合の運搬方法を検討しなくてはならない。
- ・避難所等での死者の扱いはどうするのか。

#### ■地区としての取り組みの方向性

上祖師谷エリアでは、一時集合所の認知度は低く、仙川の東側から避難するには、2ヶ所の橋が避難経路となる。粕谷エリアでも、指定している一時集合所についての認知度が低く、避難所（芦花小・中学校）はエリアの端にあり、一時集合所から離れている。

災害発生時、道に迷って逃げ遅れたりしないように、まず一時集合所や広域避難場所、避難所等、避難場所がどこにあるのかを知ってもらう必要がある。発災時に備えて、避難経路について事前確認することは重要となるので、これらの避難場所の位置情報や避難経路について周知する方法を検討する。

また、災害が発生した場合、避難所が多くの人で溢れることが想定されるが、建物が損壊して避難所に避難する場合だけでなく、電気・ガス・水道などのライフラインが止まって「在宅避難」する場合も当然考えられる。

災害時に備え、各家庭でも備蓄するよう周知していくとともに、「避難所」が情報の集約・発信、物資流通などの拠点になることも想定し、発災時を想定した実践的な避難所運営訓練とマニュアルの改訂に取り組んでいく。

#### ■各団体の今後の取り組みの方向性

##### [上祖師谷自治会]

- ・広い自治会であるという特性もふまえ、一時集合所の機能について考えていく。

[祖師谷橋自治会]

- ・現在のところ、自治会の住民が集まりやすい場所は祖師谷橋周辺であるが、一時集合所の見直しについて検討する。

[成城通りパークウェスト自治会]

- ・一時集合所や避難所がどこにあるか等、周知していく。

[粕谷会、都営第一八幡山団地自治会]

- ・芦花中は医療救護所になっているが、地区でもその情報を共有していく。

#### 課題4 安否確認（要配慮者への支援など）

##### ■課題・意見

[上祖師谷エリア]

- ・要配慮者の情報は、世帯数が多く、また名簿もできていないため把握しきれしていない。
- ・大規模集合住宅では、管理組合にも入らず、表札のない世帯もある。
- ・発災時の安否確認は、民生委員やあんしんすこやかセンターだけでは受け持ち人数も多くて対応できない。
- ・今後も、町会加入を促進するのと同時に、要配慮者についての計画を進めていく必要がある。
- ・安否確認の方法として「無事です」サインを出してもらうことも検討する。
- ・安否確認の協定を結んでいるのは、まだ上祖師谷7丁目のみである。
- ・上智大学の寮「祖師谷国際交流会館」に消防訓練に参加してもらい、交流ができてきた。
- ・駒沢大学等の近隣の学校に働きかけることを検討する。

[粕谷エリア]

- ・安否確認の手段は、通信手段を含めまだできていない。
- ・現在、町会名簿を作るのは難しい。情報を把握するのは難しい。
- ・要配慮者はわからない。65歳以上は民生委員が把握しているが、受け持ち人数が多くて対応できない。個人情報の問題もあるが、抵触しない範囲で情報交換して、町会の方でも動いてもらうことが必要である。
- ・とにかく人。人がいないと防災訓練できない。救出もできない。
- ・町会・自治会などで動ける人は少なく、高齢化の波もきている。八幡山団地のように、改築中のため人がいない場合もある。人手が少ないところでどうやって支援していくのか。

##### ■地区としての取り組みの方向性

要配慮者の情報については、世帯数が多く把握しきれっていないのが実情である。発災時の要配慮者の安否確認は、民生委員やあんしんすこやかセンターだけでは対応できない。個人情報保護の問題があるが、町会・自治

会でも対策をとっていくことが必要となる。

また、要配慮者のいる世帯にも町会・自治会に加入してもらうよう取り組んでいくとともに、要配慮者についての情報を提供してもらう方法についても検討する。

また、安否確認の方法についても、被災時に各世帯から「無事です」サインを出してもらうなど、具体的な方法について検討する。

支援者の確保については、町会・自治会でも人手不足であり、高齢化が進んでいる。上智大学留学生の寮「祖師谷国際交流会館」との交流を引き続き行う等、近隣の学校等に働きかけて支援者を確保し、災害時に協力を得られるよう取り組んでいく。

#### ■各団体の今後の取り組みの方向性

[粕谷会・都営第一八幡山団地自治会]

- ・基本原則『向こう三軒両隣』の関係づくりを推進していく。
- ・近隣の学校に働きかけ、支援者を増やしていく。